

二〇一七年度 桐朋女子中学校入学試験 (B入試)  
筆記試験 (国語)

|      |
|------|
| 受験番号 |
|      |

|     |
|-----|
| 氏 名 |
|     |

【注 意】

- 一、問題冊子が配られても、開いてはいけません。
- 二、問題冊子は17ページまであります。
- 三、「はじめなさい」と言われたら、まず、問題冊子の表紙と解答用紙二枚に、それぞれ受験番号と氏名を書きなさい。
- 四、答えは、すべて解答用紙に書きなさい。
- 五、問題冊子に書きこみをしてかまいません。
- 六、「やめなさい」と言われたら、すぐに筆記用具をおき、解答用紙も問題冊子も表を上にして、机の上におきなさい。
- 七、試験時間は四十五分です。

一、次の①～⑩の――線部のカタカナを漢字に直しなさい。また⑪～⑮の――線部の漢字の読みをひらがなで答えなさい。

- ① ミズウミで遊ぶ  
 ③ エイセイ放送を見る  
 ⑤ 個数のヘイキンを出す  
 ⑦ 親コウコウをする  
 ⑨ ショチュウウ見まいを書く  
 ⑪ 明日に備える  
 ⑬ 幕末に活やくした人々  
 ⑮ 八百屋で買い物をする

- ② エンガン漁業について調べる  
 ④ 大キボな施設しせつを使う  
 ⑥ ヒツウな声をあげる  
 ⑧ ジョウキ機関車に乗る  
 ⑩ 選挙でヒョウを集める  
 ⑫ 警笛けいてつを鳴らす  
 ⑭ 緑黄色野菜を食べる

二、次の(1)～(2)の問いに答えなさい。

- (1) 次の①～⑤のそれぞれについて、例のように、中央の□の字と上下左右の字を組み合わせて、四つの二字熟語を作ります。それぞれの□に当てはまる漢字を後の語群から選び、記号で答えなさい。

⑤  
出 → 開 ↓ □ → 達  
          ↓  
          熱

①  
探 → 未 ↓ □ → 識  
          ↓  
          能

(例)  
議 → 採 ↓ □ → 断  
          ↓  
          意

②  
口 → 順 ↓ □ → 子  
          ↓  
          査

(答) 決

③  
比 → 前 ↓ □ → 年  
          ↓  
          外

④  
感 → 人 ↓ □ → 報  
          ↓  
          景

|   |   |    |
|---|---|----|
| 才 | ア | 語群 |
| 知 | 例 |    |
| 力 | イ | 因  |
| 調 | 困 |    |
| キ | ウ | 情  |
| 補 | 情 |    |
| ク | エ | 密  |
| 発 | 密 |    |

(2) 次の①～⑤のそれぞれについて、例のように、数の数え方を漢字一字で答えなさい。

(例) 紙 ↓ 枚

- ① 本      ② ピアノ      ③ 和歌      ④ くつ      ⑤ とうふ

三、次のA・Bはどちらも日本人にとって身近な食文化に関わる文章です。読んで、後の問い

に答えなさい。字数制限のある問いに答える場合、「、」「や」「。」「等」も一字と数えます。

A 腐ること(腐敗)と発酵はかなりちがう印象がありますが、どちらも微生物が有機物を分

解するという意味では同じことです。人びとの役に立つときには発酵、有害なときには腐敗と

よんでいます。発酵と腐敗が微生物の働きによることがわかったのは、二〇〇年ほど前のこ

とです。一七〇〇年ごろ、オランダのレーベンフック(一六三二～一七二三)が、自分でつ

くった顕微鏡を使って肉眼で見ることで、<sup>③</sup>できないとても小さな生物がいることを見つけまし

た。その大きさは、髪の毛の太さの二分の一から一〇〇分の一に相当する二五～〇・五マイ

クロメートル(マイクロメートルは一〇〇〇分の一ミリメートル)ほどです。そして一八〇〇

年代に、フランスのパスツール(一八二二～一八九五)が、微生物によって発酵と腐敗が起

こることを発見しました。その後の研究によって、発酵と腐敗はどちらも微生物が有機物を

分解することだとわかったのです。微生物には、クロレラなどの藻類やアメーバなどの原生

動物も含まれますが、発酵に使われる微生物は細菌、酵母、カビです。

ところで、人びとは大昔から微生物の働きとは知らずに発酵によっていろいろな食品をつ

くってきました。紀元前数千年には、メソポタミアやエジプトですでにワインやビールがつくられていました。これらのお酒は、ブドウや麦などからできた糖を酵母でアルコールまで分解したものです。味噌みそやしょう油、ヨーグルト、チーズ、パンなども発酵を利用して古くから製造されてきた食品です。たとえば味噌は、カビの一種のこうじ菌によって原料の大豆だいずに含まれるデンプンを糖に、タンパク質をアミノ酸\*に分解してつくられます。アミノ酸は味噌のおいしさのもとです。糖はさらに、乳酸菌によって乳酸などの酸に、また酵母によってアルコールに分解されて味噌の独特な風味をもたらししているのです。

腐敗も発酵と同じく、微生物によって有機物が分解されることですが、食品が腐るととてもいやな臭いにおがします。この臭いのもとは、食品が分解してできたアンモニア\*、硫化水素りゅうか、メチルアミン、メチルメルカプタンなどです。香りかおだけでなく、食品本来の色や味もそこなわれて食べられなくなります。

二十世紀になって、微生物が詳しく研究くわされたおかげで、微生物が役に立つさまざまな物質を生みだすことがわかってきました。今日、微生物による発酵は食品以外にもいろいろな物質の生産に使われています。たとえば、栄養を補うためなどに役立てられるアミノ酸やビタミン、病原菌が増えるのを抑える抗生物質こうせい、がんの治療ちりように用いられる薬などが大きな設備でつくられるようになってきました。発酵は大昔から私たちの生活を豊かにしてきましたし、これからもなくしてはならない技術の一つです。

**B**

だし<sup>〃</sup>は、さまざまな料理のベースとして広く使われています。調理されるものの味をひきたたせ、しかも自分は姿を見せません。「人<sup>④</sup>をだし<sup>〃</sup>にして<sup>⑤</sup>」などということばを耳にしますが、これなどはだし<sup>〃</sup>の性質を見事にいい表しています。

日本では、昆布<sup>こんぶ</sup>、かつお節、煮干<sup>にぼし</sup>などといっただし<sup>〃</sup>が代表的で、いろいろな料理に使われてきました。これら日本のだしの素材はすべて乾燥<sup>かんそう</sup>され、余分な水分が取り除かれており、だしにとって一番大切なうま味成分<sup>〃</sup>が凝縮<sup>ぎようしゆく</sup>されたものです。一方、中国料理やフランス料理では、おもに肉や野菜を使って、いずれも新鮮<sup>しんせん</sup>な素材そのものを長い時間煮込<sup>にこん</sup>んで、味のベースにしています。

ではこれらのだし<sup>〃</sup>に共通する味の成分は何でしょうか。代表的なものは、昆布や野菜などに多く含まれるグルタミン酸（アミノ酸の一種）、かつお節や煮干、肉類などに多く含まれるイノシン酸（<sup>\*かくさん</sup>核酸の一種）です。しかもこれらのうま味成分<sup>〃</sup>は、いずれも日本人によって発見されました（グルタミン酸は一九〇八年に池田菊苗<sup>さくなえ</sup>、イノシン酸は一九一三年に小玉新太郎によって発見された）。

グルタミン酸とイノシン酸は単独でもうま味を感じますが、組み合わせる使うことによつて、さらに強いうま味を感じることができます。この現象を「うま味の相乗効果<sup>⑥</sup>」といい、私たちの祖先は昔から、洋の東西を問わず、生活の知恵<sup>ちえ</sup>としてだしのとり方に活かしてきました。

甘味、酸味、塩味、苦味につぐ五番目の基本味として、いまや「コロコロ<sup>〃</sup>」は国際的な

用語として認められています。この五つの基本味については、それぞれをとらえる細胞（受容体）が舌にあり、味を示す物質がくっついたときに脳にその情報が送り込まれて私たちは味を感じるようになります。アミノ酸については、右手と左手のような関係のD体とL体があります。ところが、私たちのからだを構成するタンパク質はL体のアミノ酸からできており、しかも舌でうま味を感じるグルタミン酸はL体のほうです。これは、私たちの舌にある味覚をとらえる受容体が、D体とL体のアミノ酸をそれぞれ異なるものとしてきちんと識別できることを意味しています。私たちが生まれて初めて口にする母乳の中にはL体のグルタミン酸がたくさん含まれていて、生まれたばかりの赤ちゃんはこのうま味を識別して、母乳を飲んでいるのです。この味が自分に必要だということ<sup>⑧</sup>を赤ちゃんは知っているのです。料理の味のベースであるうま味は、私たちが成長し、生きていくうえでなくてはならないものです。

（日本化学会編『化学ってそういうこと！——夢が広がる分子の世界』化学同人）

※なお、原文の中の数字は漢数字に、単位はカタカナに、表記を改めた。

\*有機物 —— ここでは、生命体のもととなる物質をさす。

\*藻類 —— 光合成をし、水中で生活をする植物。

\*原生動物 —— 最も原始的な動物のグループ。

\*アミノ酸 —— タンパク質が分解してできた物質。

\*アンモニア、硫化水素、メチルアミン、メチルメルカプタン

—— ここでは悪臭あくしゅうのもととなる化学物質の例として挙げられている。

\*核酸 —— タンパク質の合成に欠かせない物質。

問一、Aの文章より「腐敗」と「発酵」の共通点を十五字以内で答えなさい。

問二、 —— 線部①「人びとの役に立つ」とありますが、本文で挙げられている「役に立つ」具体例を四つ答えなさい。

問三、 —— 線部②「有害なとき」とありますが、本文では、「有害なとき」として食品がどうなった状態を挙げていますか。「う状態」につながる形で二つ、それぞれ十字以内で答えなさい。

問四、 —— 線部③「肉眼で見ることのできないとても小さな生物」とありますが、その生物は何とよばれますか。本文中からぬき出して答えなさい。

問五、 —— 線部④「人を<sup>ッ</sup>だし<sup>ッ</sup>にして…」とありますが、「人をだしにする」とはどのようなことですか。最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 目立たない存在であるとばかりにすること

イ 相手のすきにつけこんでひっそりと物事を行うこと

ウ 相手を表に立たせて自分は知らん顔をすること

エ 自分の利益や目的のために、人を利用すること



問い六、——線部⑤「ッだし」の性質」とは何ですか。「ッこと」につながるように三十字以内で答えなさい。

問い七、——線部⑥「相乗効果」とはどのような効果のことをいいますか。最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 一方の働きからもう一方の働きが生まれること

イ 二つの働きが合わさると一つ一つの働きとは全く違う<sup>ちが</sup>効果が生まれること

ウ それぞれの働きを単純に合わせたものより大きな効果をもたらすこと

エ それぞれの働きに応じた効果が得られること

問い八、——線部⑦「洋の東西を問わず」を別の表現で言いかえたものとして、最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 東洋でも西洋でも

イ 東洋と西洋のどちらかで

ウ 東洋と西洋以外の場所で

エ 東洋か西洋かは気にせず

問い九、——線部⑧「自分に必要だ」について、次の(1)、(2)の問いに答えなさい。

(1) 「自分に必要」な成分とは何ですか。本文中からぬき出して答えなさい。

(2) 「自分に必要だ」と同じ意味で使われている表現を、本文中から二十五字以内でぬき

出して答えなさい。

問い十、A・Bを読み、「発酵における微生物の働き」と「だしの働き」の共通点を答えなさい。

四、次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。字数制限のある問いに答える場合、「、」や「。」等も一字と数えます。問題文には、原文の一部を省略したところがあります。

明日<sup>あした</sup>実は父<sup>ちち</sup>の達<sup>たつ</sup>雄<sup>ゆう</sup>の職場であるフランス料理店『ドビュッシー』の厨房<sup>ちゆうぼう</sup>（台所）にいる。職人<sup>しやくじん</sup>たちはフランスから菓子<sup>かし</sup>職人<sup>しやくじん</sup>を招いてパーティーをするための準備に精を出している。

忙<sup>いそが</sup>しそうに働いている厨房の人たちがアナウンサーの①<sup>①</sup>の声に集中したのが分かった。普段<sup>ふだん</sup>だったら仕事中にラジオを聞くなんてとんでもない。でも、今日は特別な日<sup>とくべつなひ</sup>なのだ。なんといっても、世紀の決戦なのだ。仕事に厳しいモリーも達雄<sup>たつゆう</sup>も黙<sup>もく</sup>認<sup>にん</sup>している。

「河西の回転レシーブ決まりました」「よっしゃあ！」小さなつぶやきが聞こえる。「ソ連が一点を返しました」「くそ」調理台を叩<sup>たた</sup>く音がする。「金メダルポイントです」怒<sup>おど</sup>ったり、喜んだりしながら、みんな忙しそうに手を動かしている。やがて料理もメインの肉料理とデザートを残すだけになった。そして、ついにその瞬間<sup>しゆんかん</sup>がやってきた。「ゲームセット。優勝です。日本チーム、ついに金メダルを獲得<sup>かくとく</sup>しました」

一瞬<sup>ひとしゆん</sup>、誰<sup>だれ</sup>もが沈黙<sup>ちんもく</sup>した。次の瞬間、みんなの顔が笑顔<sup>えがお</sup>になった。ガッツポーズをとったり、拍手<sup>はくしゅ</sup>をしたり、ホールのお客さんに聞こえないような小さな声で歓声<sup>かんせい</sup>をあげたりした。明日<sup>あした</sup>実<sup>じつ</sup>も椅子<sup>いす</sup>から飛び降りて、万歳<sup>ばんざい</sup>をした。

「やりました。ついにやりました。金メダル。日本チーム、金メダルです。大松監督<sup>かんどうく</sup>のもとに、選手<sup>せんしゅ</sup>たちが駆け寄りました」ラジオからはアナウンサーの興奮<sup>きふん</sup>した声が響<sup>ひび</sup>いている。家

ではお母さんが拍手をしているだろうか、亮<sup>りょう</sup>もはしゃいで踊<sup>おど</sup>っているだろうか。おばあちゃんは泣いているかもしれない。学校の友達も、商店街の人たちも、みんな喜んでいようかな。明日実もなんだか、おやみとうれしくなった。胸がざわざわとして、泣きたいような、踊り出したような、不思議な気持ちになった。

これが金メダルを獲<sup>と</sup>るといふことか。「さ、俺<sup>おれ</sup>たちも負けずに頑張<sup>がんば</sup>ろう」達雄が言って、みんなはまた、いっせいに仕事にかかった。

(中略)

その後、明日実は案内係のおねえさんに連れられてパーティー会場に入った。

「あの人は誰？」明日実はおねえさんにたずねた。「ソフィ・フレールさん。フランスから来たお菓子を作る人。今日の主役よ」「あの人が、ソフィさん？ 女の人だったんだ」お父さんが尊敬する人だというから、もっと年をとった男の人だとばかり思っていた。「日本にはまだ少ないけれど、フランスとか、外国では女性の菓子職人もめずらしくないそうよ。ソフィさんは今年、フランスで一番の菓子職人に選ばれた、すごい人。大統領の食事会のお菓子もつくったの」「そうなんだ」

ソフィはコック帽<sup>ぼう</sup>をかぶっていなかった。高く結<sup>ゆ</sup>い上げた金髪<sup>きんぱう</sup>が白いコック服に映<sup>は</sup>えて、まぶしいほどだった。背はまわりの男の人より頭半分ほど小さい。体もほっそりとしている。年はお父さんよりかなり上だった。

②ソフィの横<sup>よこ</sup>には、人の背丈<sup>せたい</sup>ほどもある飴細工<sup>あめざいく</sup>とケーキを組み合わせた菓<sup>か</sup>子<sup>し</sup>があった。飴細

工は青い海と白い波を描いていた。ケーキは昇る太陽のように赤く、チョコレートと生クリームで飾られている。

ソフィが何か言い、ドビュッシーのマダムの白河遥子が通訳をした。<sup>\*</sup>「ゴッホをはじめとする十九世紀、印象派のフランスの画家達は日本の浮世絵から大きな影響を受けました。私もそれに倣い、北斎の浮世絵にインスピレーションを得た菓子を用意させていただきました。飛行機の上から見た、日本の風景も投影されています」人々は大きな拍手をした。遥子がさらに続けた。「では、皆様、ソフィの監修で仕上げました菓子をご賞味ください。この菓子のために、材料はすべてフランスから取り寄せ、ドビュッシーの菓子職人がソフィの指導の元、仕上げました。本国フランスと同様の味でございます」扉が開いて、銀の盆に菓子をのせたウェイターたちが客席に入ってきた。「おいしそう」明日実がつぶやくと、おねえさんは「後で、私たちもいただきますしうね」とささやいた。

パーティが終わると、料理長のモリーがソフィを伴って厨房にやって来た。達雄たち菓子職人は緊張した面持ちでソフィを迎えた。ソフィはにこにこして達雄の前に来るとフランス語であいさつをした。フランス語の得意な料理人が隣に立ち、通訳した。「今日はありがとうございました。うございました。青山さんはじめ厨房の皆さんのおかげで、すばらしい夜になりました」

「こちらこそ、ありがとうございます。たくさんのお事を学ばせていただきました」その声が感激で少し震えていた。

この人が、お父さんの尊敬する菓子職人なのだ。こんなにきれいな女の子なのに、フラン

スで一番の菓子職人で大統領の食べるケーキもつくる。なんて、すごい人なんだろう。

明日実<sup>はな</sup>はソフィから目が離せなくなった。

ソフィが何か言って明日実の方を見た。<sup>③</sup>明日実<sup>はお</sup>は頬が赤くなるのが分かった。ソフィは明日実の方にやって来ると、膝<sup>ひざ</sup>を折って向き合った。

「お菓子が好き？」料理人が通訳してくれた。明日実<sup>はお</sup>はどきどきしながら大きくうなずいた。近くで見るとソフィは目の周りにしわがあり、頬にそばかすがあった。お父さんよりずっと年上なのだろう。けれど、肌<sup>はだ</sup>は透<sup>す</sup>き通るように白く、青い目と金色の髪<sup>かみ</sup>をしていた。「今日のお菓子は、私とあなたのお父さんたちが力を合わせたものなのよ。たくさん食べてくださいね」おねえさんが銀の盆にのせた菓子を持って来た。ソフィが一つ取って明日実に差し出した。それはオレンジを飾ったチョコレートケーキだった。（中略）

甘い香りとともにオレンジの味が口中に広がった。オレンジはひんやりと冷たく柔<sup>やわ</sup>らかく、みずみずしい。さくつとしたチョコレートのケーキを噛<sup>か</sup>むと、中から熱いチョコレートがあふれ出した。甘くて苦くてミルクの味。オレンジとチョコレートがひとつになって口の中をぐるぐると回った。

明日実<sup>はお</sup>は目を見張った。<sup>④</sup>それはたとえていえば、空にかかる虹、あるいは南の国の太陽の味<sup>あじ</sup>がする真っ赤な果実。夏の蝶<sup>ちよう</sup>。夕日に輝<sup>かがや</sup>く海の色。鳴き交<sup>か</sup>わす小鳥たち。風に揺<sup>ゆ</sup>れる白い花<sup>はな</sup>。<sup>⑤</sup>どんな言葉で表現したら、いいのだろう。胸の奥<sup>おく</sup>が熱くな<sup>あ</sup>って泣きたいような、叫<sup>さけ</sup>び出したいような気持ちになった。お父さんのつくる菓子とは全然違<sup>ちが</sup>う。お父さんの菓子はもっ

と穏やかでやさしくて静かだ。「おいしい？」とでも言うように、ソフィさんはにこにこ笑っている。「これがフランスの味？」ソフィはにっこりと笑った。ソフィの言葉をそばにいた料理人が通訳した。「そうね、フランスの味でもあるけど、私の味でもある。一人一人顔が違うように、菓子もつくる人によって違う味になるのよ」

明日実は消えていく菓子の味を惜しむように、胸の中で繰り返した。

これがソフィさんの味。

⑥ ふいに、日本チームが勝ったと聞いた時の、ざわざわとした不思議な気持ちがいち早く消えた。「おいしい。金メダルの味がする」明日実が言うと、ソフィは目を丸くした。「それは、オリンピックの金メダルのこと？ 一等賞の人に贈られるメダルのことね。うれしいわ。ありがとう」お父さんのお菓子も好きだけれど、ソフィさんのお菓子も好きです。いつか、私もこんな風にお菓子をつくりたい」明日実が言うと、ソフィはうなずいた。(中略)

「私もソフィさんのようになれるか？」明日実はたずねた。「なれるわよ。あなたが本当にお菓子が好きなら、そのための努力を惜しまないなら。人は自分が思い描いたような人になれるのよ」

ソフィは立ち上がると、部屋にいる菓子職人全員に聞こえるように言った。「菓子はパンや肉とは違って日々の食事にはなりえません。その味は虹のようにではなく消えて、記憶の中にしまわれます。けれど、菓子は人を幸せにすることができます。もし世の中に菓子がなかったら、世界はどんなに単調でつまらないことでしょう。菓子は美しい音楽や詩や絵画と

同じように、人々に感動を与えます。菓子があるとやさしい気持ちになります。木枯らしの冷たさを忘れることができます。人生には辛いことも多いのですが、菓子は今日という日を少しだけ温かい、豊かなものにしてくれます。どうぞ、みなさんも、<sup>⑦</sup>そのことを忘れないでください。この仕事に誇りを持ち、技術を磨いてください」

ソフィの言葉を傍らの料理人が通訳すると、大きな拍手が生まれました。

明日実には、ソフィの話は少し難しかった。でも、きっと、それは、明日実が感じた、あのざわざわとした不思議な気持ちのことを言っているのだと思った。

ソフィは明日実と未来を振り返って言った。「今夜、あなた方に会えて本当によかったわ。いつの日か、素敵な菓子職人になったお二人に会いたいわ。その時は、あなた方のつくったケーキを食べさせてね。約束よ。楽しみにしているわ」

「私、お菓子をつくる人になる。そして金メダルのケーキをつくりたい」明日実が叫んだ。「私も、お菓子をつくる人になって金メダルを獲る」未来が叫んだ。

ソフィさんがにこにこ明日実と未来を見つめている。

明日実は体が熱くなり、飛び上がりたような、泣きたいような、不思議な気持ちになった。頭のどこかでアナウンサーの叫び声が響いている。

—— やりました。ついにやりました。金メダル。日本チーム、金メダルです。

忘れない。絶対忘れない。今日のこと。今日食べたお菓子のこと。<sup>⑧</sup>私は絶対にお菓子をつくる人になる。

東京オリンピックの年、日紡貝塚女子バレーチームがソ連に勝って金メダルを獲った夜、明日実は菓子職人になることを決めた。

（中島久枝『金メダルのケーキ』光文社文庫）

\* マダム —— 店の女主人。

\* 監修 —— 監督し、指導すること。

\* 未来 —— この会場にいた、明日実と同一年の少女。

問い一、 —— 線部①「今日は特別な日なのだ」とありますが、具体的にどのような日です

か。三十字以内で書きなさい。

問い二、 —— 線部②「ソフィの横には、人の背丈ほどもある飴細工とケーキを組み合わせ

た菓子があった」とありますが、この菓子は何かからヒントを得て作られたとソフィは言っていますか。六字と五字で二か所ぬき出して答えなさい。

問い三、 —— 線部③「明日実は頬が赤くなるのが分かった」とありますが、なぜ「頬が赤

く」なったのですか。最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア ソフィさんのようにきれいな異国の女性に会うのは、初めてでドキドキしたから。

イ いつもと違って感激で少し震えている父親の声を聞いてドキドキしたから。

ウ フランス語が話せないのにソフィさんに話しかけられそうになりドキドキしたから。

エ ソフィさんにひきつけられていることを、気付かれたと思うドキドキしたから。



問い四、——線部④「それ」とは何をさしますか。十一字で答えなさい。

問い五、——線部⑤「どんな言葉で表現したら、いいのだろう。胸の奥が熱くなって泣きたいような、叫び出したような気持ちになった」とありますが、結局これを明日実はどうのように表現しましたか。本文中から六字でぬき出して答えなさい。

問い六、——線部⑥「ふいに、日本チームが勝ったと聞いた時の、ざわざわとした不思議な気持ちがい出された」とありますが、明日実がこの時、オリンピックの時に感じた気持ちを思い出したのはなぜだと考えますか。六十字以内で説明しなさい。

問い七、——線部⑦「そのこと」について、ソフィさんは菓子についてどんなことを忘れないでと言っているのでしょうか。次の中から当てはまらないものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 菓子の味は食べるとはかなく消えてしまうが、人はそれを覚えているものだ。

イ 菓子は木枯らしが吹くような寒いときに食べると良い効果が得られるものだ。

ウ 菓子は音楽と同じように、あると人生に影響を与えることがあるものだ。

エ 菓子は人生の辛さを少しだけ減らしてくれる役目があるものだ。

問い八、——線部⑧「私は絶対にお菓子を つくる人になる」とありますが、明日実がこのような理由として最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア ソフィさんの作った菓子を食べて、そのおいしさや味に感動したから。

イ 明日実が続いて、未来も菓子職人になると言ったことで、競争心が生まれたから。

ウ ソフィさんに自分の作ったケーキを絶対に食べさせなければとあせったから。

エ ソフィさんの話が理解できたので、もっと菓子について知りたくなったから。

問九、明日実が「菓子職人になる」と決心するまでには、周りの人の存在が大きく影響しています。ソフィさんの存在も明日実が将来の夢を決めるきっかけの一つになっていました。あなたが今まで様々なことを体験してきた中で、明日実のように、人との出会いや誰かからの働きかけや言葉がきっかけで、何かを決心したり自分が変わったりした体験を一〇〇字程度でまとめなさい。

氏 名

[illegible]

|   |    |   |   |
|---|----|---|---|
| ⑬ | ⑨  | ⑤ | ① |
|   |    |   |   |
| ⑭ | ⑩  | ⑥ | ② |
|   |    |   |   |
| ⑮ | ⑪  | ⑦ | ③ |
|   | える |   |   |
|   | ⑫  | ⑧ | ④ |
|   |    |   |   |

| (2) | (1) |
|-----|-----|
| ①   | ①   |
|     |     |
| ②   | ②   |
|     |     |
| ③   | ③   |
|     |     |
| ④   | ④   |
|     |     |
| ⑤   | ⑤   |
|     |     |

[illegible]

|  |  |  |  |
|--|--|--|--|
|  |  |  |  |
|--|--|--|--|

[illegible]

| 狀態  | 狀態  |
|-----|-----|
| 1   | 1   |
| 2   | 2   |
| 3   | 3   |
| 4   | 4   |
| 5   | 5   |
| 6   | 6   |
| 7   | 7   |
| 8   | 8   |
| 9   | 9   |
| 10  | 10  |
| 11  | 11  |
| 12  | 12  |
| 13  | 13  |
| 14  | 14  |
| 15  | 15  |
| 16  | 16  |
| 17  | 17  |
| 18  | 18  |
| 19  | 19  |
| 20  | 20  |
| 21  | 21  |
| 22  | 22  |
| 23  | 23  |
| 24  | 24  |
| 25  | 25  |
| 26  | 26  |
| 27  | 27  |
| 28  | 28  |
| 29  | 29  |
| 30  | 30  |
| 31  | 31  |
| 32  | 32  |
| 33  | 33  |
| 34  | 34  |
| 35  | 35  |
| 36  | 36  |
| 37  | 37  |
| 38  | 38  |
| 39  | 39  |
| 40  | 40  |
| 41  | 41  |
| 42  | 42  |
| 43  | 43  |
| 44  | 44  |
| 45  | 45  |
| 46  | 46  |
| 47  | 47  |
| 48  | 48  |
| 49  | 49  |
| 50  | 50  |
| 51  | 51  |
| 52  | 52  |
| 53  | 53  |
| 54  | 54  |
| 55  | 55  |
| 56  | 56  |
| 57  | 57  |
| 58  | 58  |
| 59  | 59  |
| 60  | 60  |
| 61  | 61  |
| 62  | 62  |
| 63  | 63  |
| 64  | 64  |
| 65  | 65  |
| 66  | 66  |
| 67  | 67  |
| 68  | 68  |
| 69  | 69  |
| 70  | 70  |
| 71  | 71  |
| 72  | 72  |
| 73  | 73  |
| 74  | 74  |
| 75  | 75  |
| 76  | 76  |
| 77  | 77  |
| 78  | 78  |
| 79  | 79  |
| 80  | 80  |
| 81  | 81  |
| 82  | 82  |
| 83  | 83  |
| 84  | 84  |
| 85  | 85  |
| 86  | 86  |
| 87  | 87  |
| 88  | 88  |
| 89  | 89  |
| 90  | 90  |
| 91  | 91  |
| 92  | 92  |
| 93  | 93  |
| 94  | 94  |
| 95  | 95  |
| 96  | 96  |
| 97  | 97  |
| 98  | 98  |
| 99  | 99  |
| 100 | 100 |

問い五

[illegible]

とく

問  
い  
八

1000 JOURNAL OF CLIMATE

[illegible]

|         |
|---------|
| 受 験 番 号 |
|         |

| 氏 | 名 |
|---|---|
|   |   |

三、  
問い十

\_\_\_\_\_

四、問

[illegible]問  
い  
二[illegible]

問  
い  
三

問  
い  
四

[illegible]

問  
い  
五

|  |
|--|
|  |
|  |
|  |
|  |
|  |

問  
い  
六[illegible]

問  
い  
七

問  
い  
八

114

問  
い  
九

[illegible]